

第 17 回岡山県経済戦略会議概要

日時：令和 7 (2025) 年 8 月 6 日（水）15：30～17：35

場所：ホテルグランヴィア岡山 3 階 パール

○意見交換テーマ 「地域を支える産業の課題と展望について」

<開会挨拶>

【知事】

- ・この経済戦略会議では、経済界の代表の皆様から重要な御示唆をいただいている。
- ・就任時から教育、産業分野に力を入れてきたが、4 期目となった今、加速する少子化、人口減少により生じる諸課題について、皆様方と一緒にになって対策を考えていかなければいけない現状に加え、米国の関税措置の動きもあった。
- ・17 回目を迎える今回が大事な会議になると考えている。何でも御意見、御提案をいただきたい。

<意見交換テーマに関する説明>

<意見交換>

【経済団体】

- ・吉備高原は地盤が強固で地震もなく、住宅環境をはじめ素晴らしい場所なので、いろいろ誘致を進めたい。イギリスのパブリックスクールをはじめ、女性流出に歯止めをかけるためにも女性が働きたいと考える大企業の管理部門やデータセンターなど、誘致を図るのも有効だ。
- ・岡山には岡山大学医学部、川崎医科大学など医療環境も充実しているので、健康産業を将来の成長産業として、誘致を進めるのも一つの手と考える。
- ・岡山は平野が広いと他県から羨ましがられるが、市街化調整区域が多い等の課題もあることから、工業用地としても活用できるように認めてもらい、企業を誘致するべきだ。
- ・岡大にイノベーションに関する施設が出来ているので、そういった場を活用し、岡大を中心とした産官学連携をもっと進めていく必要がある。
- ・公立病院について、広島県の事例も参考に、マネジメントを集約していくべきだ。約 25 ある公立病院を集約するのではなく、病院そのものは地域に残し、病床数や検査装置などを含めて効果的、効率的なマネジメントが可能となるようマネジメントを集約していかないと、人口減少、高齢社会にもちこたえられない。
- ・観光産業については、観光消費額を目標に掲げ、その達成に向けて方策を練っていくことを通じていろいろな仕掛けができてくる。観光の高付加価値化を図っていくためにも、外資系のホテルを誘致し、いわゆる富裕層を呼び込む必要がある。長船の刀剣博物館は、ルイ・ヴィトンとの関係が出来ているようなので、ルイ・ヴィトンが保有する高級ホテルを誘致し、長船、牛窓、日生、備前焼など観光ルートづくりなども一緒にできると面白いこ

とになると思う。

【知事】

- ・観光は、岡山にとって伸び率が期待できる分野であり、非常に盛り上がっている。高級ホテルの誘致は、前向きに考えたい。皆さんからの出資や投資も大歓迎なので、話があれば産業労働部につないでいただきたい。
- ・吉備高原は今後の発展が期待できる地域でもあり、産業団地や住宅地の売却も進み、盛り上がりを感じている。
- ・2040年代半ばまで高齢者の人口が増える見通しの中、健康産業は間違いなく伸びる産業だ。産学官連携も有効に活用しながら力を入れていきたい。
- ・公立病院の集約について、どんどん人口構成が変わっていく中、どのような形が最適なのか考えていきたい。

【経済団体】

- ・毎四半期ごとに実施している商工会議所連合会の景況調査において、令和7年4月～6月期の結果が出て、前年同期と比べてD I 値がマイナス12.5となった。これについて、二期ぶりの改善と評価している。中でも、飲食・宿泊、生活関連・娯楽といった業種の改善が顕著で、瀬戸内国際芸術祭あるいはファジアーノ岡山のJ 1昇格による来県者の増加が寄与していると考えている。
- ・幅広い業種で販売価格の上昇が続き、一定程度の価格転嫁が進む中、仕入価格の上昇ペースは追いつかず、中小・小規模事業者の中には防衛的な賃上げなど余儀なくされている場合も多く、労務費を含めた価格転嫁ができる環境づくりが喫緊の課題だ。
- ・米国の関税措置について相談窓口を設けているが、具体的な相談は今のところない。
- ・東京一極集中は全国的な問題で、地方も頭を抱えている問題だ。岡山で言えば岡山市や倉敷市など中核都市への人口集中が始まっているが、中山間地域における人口減少が進行する中、どのようなまちづくりをしていくかが重要になってくる。
- ・先ほど話した観光業では、面白い場所に人は集まる。面白いと思われるものは何か分析する必要があるが、それは観光をはじめ、文化・スポーツだと考える。文化面では、岡山市中心部に美術館がいくつもあり、新しい美術館も出来ているので、文化ゾーンをつくることを提案したい。スポーツ面では、新アリーナの建設など、娯楽面での岡山の魅力向上に向けて今動いており、この流れを消さないように続けていきたい。
- ・最低賃金が1,000円を超えることになった。賃金上昇は賛成だが、原材料費や燃料費の高騰に苦しみ、廃業に追い込まれる小規模事業者がいる今の段階での賃金上昇であるため、最低賃金の3要素である支払い能力があるかどうか、見誤らないよう国・県にも指導をお願いしたい。

【知事】

- ・商工会議所連合会の景況調査は重要な資料で、参考にさせていただいている。
- ・最低賃金は、ある程度の時間をかけて水準が上がっていくことは歓迎する。賃金上昇による購買力向上、消費拡大を通じて経済が回っていくことは良い形だが、急激な賃上げは、

特に中小企業の経営者の方にとっては心配な話でもあり、リスクだと感じている。

- ・岡山で育った若者が、勉強するために県外に出て、その後、地元に戻ってきたくなるような魅力的な地域をつくっていくことは大事なことで。先ほど美術館の話もあったが、皆さんから投資も大歓迎だ。また、スポーツ立県宣言をした岡山として、スポーツが盛り上がる地域と一緒にしていきたい。

【経済団体】

- ・行政のリソースに限られる中、官民連携の強化が求められる。民間企業の参画を図ることで、新たな雇用機会が創出でき、専門性やノウハウの活用による新たな付加価値創造の可能性も広がる。公共施設の民間委託など、効率化と質の向上をどんどん進めてほしい。
- ・デジタル化の活用が地域社会には不可欠だ。特にA Iの活用を自治体にも進めてほしい。少子高齢化で働く人が少なくなる中、民間企業と連携した多様なアプリ開発の提供など、住民の利便性向上に向けて取り組んでほしい。
- ・起業支援を通じたイノベーション人材の育成や、自治体職員による民間の高度人材育成カリキュラムの受講などにより、地域を支える人材育成を進めてほしい。
- ・岡山の優位性の一つに、大学の充実が挙げられる。大学が数多く存在することで22歳までの人口流出は少ないが、大学卒業と同時に県外流出する現象が起きている。学生に対する地域産業への知名度向上と若者が楽しめる生活環境の構築が必要で、そのためには若者との連携、若者のニーズ把握、行動変容に関する活動への若者の取り込みが大事だ。大学コンソーシアムの活用と事務局の強化をお願いしたい。
- ・先進的な地域では、自治体、金融機関、民間企業、大学が連携して起業環境の充実を図っている。地域課題解決に向けたスタートアップの創出に取り組むことで、新たな産業の創出や既存企業の拡大、地域の活性化につながる。岡山大学に産学共創の場として整備されたKIBINOVEの活用も検討してほしい。
- ・地域課題の解決に向け、これまで述べた官民連携、デジタル化、人材育成、地域スタートアップの創出によるエコシステムの確立が重要だ。

【知事】

- ・大学が充実しているのが岡山の強みだと話されたように、それぞれの大学の魅力で学生を惹きつけている。大学コンソーシアムを中心に県全体でより伸ばしていきたい。
- ・デジタル化、A Iについては、皆で活用しなければいけない。先日、県庁でも幹部を集めて研修会を実施した。
- ・人材の流出については悩ましい。地元定着率を上げるためにも、良い職場をつくっていく、岡山の魅力を高めていく、岡山の魅力を高校卒業までに知ってもらい、この地道な努力が必要だと考えている。
- ・スタートアップも大事で、意欲的に頑張る人たちを支えるエコシステムの確立に向けて取り組んでいきたい。

【経済団体】

- ・少子高齢化、人口減少、特に若者の県外流出が非常に大きな課題だ。先ほども話に出た

が、岡山は大学が非常に多いので、多くの学生が集まってくる。新聞等で報じられる若者の県外流出は、20歳～24歳というような区切りなので、18歳時期での流入、22歳時期での流出など、これから対策を打つ上で詳細な分析・検討が必要だ。

- ・将来を担う若者が岡山で自身のキャリアを磨き、夢を実現し、新たなイノベーションを生んでいく環境整備に取り組むためには、1社あるいは1業態ではなく、産官学金民の連携が非常に重要だ。当会では、おかやまSDGsフェアやBeLiveなどの開催を通じて、地元高校生や大学生のSDGsに関する活動支援を継続的に行っているが、若者の成長やポテンシャルにどう応えていくのが課題だと感じている。
- ・若者定着に向けた提言として、4点述べたい。1点目は、地元企業の魅力発信の機会拡大だ。インターンシップの活用・拡大や大学コンソーシアムでの情報発信など、機会創出しながら若者に知ってもらうことが大事となる。
- ・2点目は、若者が岡山で活躍できる機会の支援だ。ITベンチャーの育成や起業経験者による大学発ベンチャーに対する支援などこれまでの取組に加え、今後、産官学金民言、皆で取り組んでいく必要がある。
- ・3点目は、Uターン、Iターンへの支援強化や、県外に出た学生向けのインターンシップの実施や情報発信など、既に県外に出ている人に岡山に戻ってきてもらう取組について。地元企業や団体と県が連携して実施しているマッチング支援や再就職セミナーなどについても、さらなる拡充に向けて取り組む必要がある。
- ・4点目は、岡山県の魅力向上だ。海外居住者の視点では、直行便の拠点がないことには選ばれにくい。直行便を増やす、直行便の拠点を増やすことも喫緊の課題だ。

【知事】

- ・県外流出をどう抑えていくのか、そのときの分析が大事だという意見は本当にそのとおりで、合計特殊出生率の話と同様に、若者の県外流出の人数や比率といった自分たちの現状をきちんと認識した上で、今後の施策に取り組む必要がある。
- ・少子化により人手不足の状況がより厳しくなる中、システム化、機械化、合理化、外国人材の活躍など、どのように対応していくのか社会全体で考えていかなければいけない。
- ・地元企業の魅力発信、県自体の魅力向上について、自分の子どもが戻ってきたくなくなるような、働きたくなるような地域・会社かどうか、企業経営者の方には今一度問い直していただきたい。難しいのは、自己評価では出来ていても、他者から見たら出来ていない場合もある。女性活躍についても女性の視点も取り入れた取組を進めることが大事だ。

【経済団体】

- ・本日は、ものづくり中小企業の現状と課題についてお話する。
- ・延べ2,200超の事業者にもものづくり補助金交付しているが、生産設備の導入支援のほか、多面的な支援が求められていると感じる。企業の財政基盤安定化のためには円滑な価格転嫁、とりわけ適正取引に関する更なる普及啓発が必要なこと、慢性的な人手不足による定着率の悪化など、中小企業の置かれた状況について理解いただきたい。
- ・雇用確保・待遇改善を促進するため、産業労働部の指導により、商工会議所、商工会中央会による伴走型の支援を水平展開する連携事業が実施されている。当会も連携し、県内事

業者の底上げを図っている。

- ・若者の県外流出については、合同企業説明会やインターンシップなど、学生と企業を結ぶ各種施策を県から受託しており、今後さらなる県内企業の魅力発信に注力していきたい。
- ・当会指導員が県内大学で講師を務めたが、その際に実施したアンケートから、学生は高水準の給与以上に、比較的自由になる時間が確保できることを重要視していることが分かった。また、産業労働部で企画された女性活躍を目的とした休憩室等の設置整備に関する補助事業は、募集開始7分で予算額に達した。これらのことから、若者を県内に引き留めるためには、長時間労働改善を目的とした設備の導入や待遇改善などを展開しつつ、例えば、“余暇を促進する県”など、県全体のイメージ戦略を検討していただきたい。
- ・県内製造業の女性経営者で構成した組織も活発で、構成員の工場見学や意見交換を行っている。先進的な研究・取組の紹介を通じて、多くの経営者の意識改革を促していきたい。
- ・支援先企業と大学との連携を多面的に紡ぎ、企業の技術革新と活性化を促進していきたい。そのために必要な企業の稼ぐ力、新たなものを生み出す力、県内企業の魅力発信への支援をお願いしたい。

【知事】

- ・県内企業の多くは中小企業で、幅広い業種それぞれが頑張ってくれていることが岡山の強みだ。
- ・今後、社員数を増やそうとする企業も応援していきたい。また、先ほど紹介のあった県内製造業の女性経営者で構成された組織も、お互い向上し合う取組が素晴らしい。
- ・そういった中小企業の皆さんの魅力を若者に伝え、自分たちの強みをきちんと理解してもらい、入社してもらうことが大事だ。新卒の際には、東京の大企業が学生を惹きつける力はすごいが、3年以内に3割以上の人が辞めていることも事実。県外で働いた経験がある方には、地元で働く良さがずいぶん刺さる可能性があるので、県としてもいろいろ取り組んでいくとともに、寄せられた成功事例など広げていきたい。
- ・給与も大事だが、休暇や福利厚生も大事だという学生のアンケート結果は、仕組みの作り方次第なところもあり我々にとって有利だ。また、7分で予算額に達した事業に関して、評判の良い施策については拡充の方向で考えていきたい。

【経済団体】

- ・本日は、中小企業、小規模事業者に対する支援の中でも、創業支援、事業承継支援についてお話す。
- ・2025年版の中小企業白書によると、中小企業、小規模事業者における後継事業者不在率は52.7%に達している現状にあり、地域経済に深刻な影響を与えている。また、商工会エリアでは、人口減少や経営者の高齢化、後継者不足も深刻で、廃業する事業者も多く出ている。
- ・地域の活力や産業を維持する観点から、創業支援は大変重要で、当会では新たな事業や雇用創出を図るため、積極的な支援を行っている。一例として、地元自治体、地元商工会議所、地元金融機関と地元商工会の4者が連携し、創業者や移住者の相談に応じる拠点を今年4月にオープンし、具体的な経営に関する相談対応や伴走支援を行っている。

- ・事業承継支援については、おかやま後継者養成塾を開催しており、今年度で10回目を迎える。参加人数は延べ600人を超え、参加した事業者のうち約3割が承継を実現している。また、地域の事業承継を支援するためのネットワークも構築されており、当会もこのネットワークの中核として、事業承継診断や計画策定支援を行っている。
- ・第三者承継は今後ますます増加することが予想されるが、金融面、組織面、そして社風など承継前後の課題が多岐にわたるため、関係機関との連携を強化し、資金調達の問題や譲受終了後の社内体制整備の支援など重点的に行う必要があると考えている。
- ・第三者承継の支援課題は大きく分けて3つある。譲渡後の運転資金の確保、譲渡条件の調整、そして譲渡後の事業運営体制整備で、今後、第三者承継を円滑に進めていくため関係機関と連携し、支援体制のロールモデルを早期に確立・共有していくことが重要だ。
- ・女性の幹部登用について当会で初めて取り組んだ。活躍する姿から、女性職員のモチベーションも上がってきている。

【知事】

- ・きめ細かく、会員企業のサポートをされている状況が分かった。創業支援、事業承継について頑張っている。頑張っている。
- ・第三者承継をきちんと位置付けて取り組まれていることに安堵した。自分で会社をつくることも良いが、最初1～2年の資金繰りなどの苦労も相当なので、今回っている会社を大事にしていくことへの理解を深め、広げていきたい。
- ・女性活躍の取組にも感謝している。

<閉会挨拶>

【経済団体】

- ・岡山は本当に素晴らしいところで、人を呼び込むような活躍の場をもっと広めていきたい。スタートアップの学生も結構いるので“スタートアップの人を伸ばす岡山県”や“外資系のいっぱい集まる岡山県”など、何らかの発信ができるような取組をしていくのが良い。30年後、再び失われた30年にならないよう取り組んでいきたい。

【知事】

- ・有意義な提言、分析に感謝申し上げる。岡山を盛り上げるに当たって、これまで以上に連携しながら岡山のポテンシャルを生かし、また、問題点には対応していきたい。引き続き協力をお願いする。